

2019年度 第14回 国家資格キャリアコンサルタント試験

(キャリア協) 実技試験(論述) 解答例(中里)

※今回の事例は大学生バージョンですね。芯になるものはやはり「キャリアビジョンが明確でない」というテーマではありますが、ちょっとひねりが入っていますね。そのひねりというのは、相談者が自身の仕事を単なる「キャリア」として捉えているのではなく、「職業生活(CC6)」、つまり、両親をモデルとして仕事を生活の中に組み込んで捉えているという点です。もうわかりますね? 「中・長期的な視点でのライフキャリアプランを描く」というもう一つのテーマが加わるのです。そして、この相談者は公務員か民間企業で働くかで迷っていますが、本来、キャリアビジョンとは、どこで働くかというよりはどのような仕事をして働くかが重要になります。したがって、大きなテーマの一つとして「仕事・職務内容理解不足」も含まれてきます。ロープレケースであれば、「法学部」をキーワードとしてお話を聴き進めたいところですね。

それと、今回の「空欄A」の出題も13回同様に「空欄A」の下に(中略)が入っています。(中略)はCC2の発言の範疇と考えれば、「空欄A」とCL2の発言が必ずしもつながっていないと考えるのが妥当かと考えます。つまり、今回の「空欄A」もCL1を要約すればいいということになります。

【設問1】 逐語の空欄Aで、キャリアコンサルタントとしてあなたならCL1の発言を受け、どのような応答をするか記述せよ。(10点)

「今まで公務員を目指してきたが、結婚式場でアルバイトをしている中で民間企業での仕事の方が自分に合っているのではと思うが、すでに始まっている就職活動や公務員試験を目前にして悩んでいるのですね。」

【設問2】 キャリアコンサルタントとして、あなたが考える相談者の「問題」を記述せよ。(10点)

「将来の仕事について、自身の特性や大学で学んできた強みなどを検討することなく、「両親に勧められて」「仕事も楽しそう」という短絡的な理由で公務員と決めるなど、キャリアビジョンが明確でないこと。さらに、公務員か民間企業か雇用条件や仕事内容など比べることなく迷い、仕事・職務内容理解不足であり、併せて、自身の中・長期的ライフキャリアプランを描くことなく、両親をモデルに職業選択をしていること。」

【設問 3】この事例の展開に関し、以下の問いに答えよ。(30 点)

(1) Z さんに対しどのような提案を行うか。逐語の空欄 B に入る、あなたが考える提案の要点を 2 つ記述せよ。

- ① 「今後のご自身の中・長期的ライフキャリアプラン」
- ② 「公務員、民間企業それぞれの仕事内容や雇用条件と、自身のやりたい仕事とを比較してみること」

①は「自己理解不足」の観点から。②は「仕事・職務理解不足、キャリアビジョンの明確化」の観点から。

(2) 設問 3 (1) で解答した 2 つのうちいずれかを選択して、キャリアコンサルタントとしてあなたはこの面談で、この後どのような働きかけを行うか、具体的に記述せよ。

② のケース

今まで公務員目指して頑張ってきた姿勢を支持し、その上で、まずは自身のやりたい仕事や職務内容について、大学で学んできたこと等を含めて再考することで、キャリアビジョンを明確にしてみるよう促す。さらに、公務員の職務内容や雇用条件と、民間企業での職種や雇用条件等を、それぞれ両親や大学のキャリアセンターなどに相談しながら書き出すことで明確にすることを勧める。併せて、中・長期的な視点で自らのライフキャリアプランを作成することを提案し、最終的に、公務員としての仕事、民間のどのような職種での仕事が、自身のキャリアビジョンにより近い働き方であるか、自ら選択し、前向きに就職活動に向えるよう支援していく。